

このプリントは提出する必要はありません。
成績には関係ありません。

❀単元名「論語は現代の私たちに何を教えるのか」

目標

人間の生き方についての孔子の考え方を
自分たちの生活と関連付けて考えよう。

課題①「論語」について、次の空欄に当てはまる言葉を確認しよう。(□の数 は 字数 を 示 して いる。)



「論語」とは、(ア)□□□古代の思想家(イ)□□と、その弟子たちの言行録をまとめたものと教科書に書いてあるね。(イ)□□□ という人は紀元前五五一年頃の生まれ、春秋時代の人らしい。戦争の絶えなかった時代に生き、彼は、人格や道徳を高めることで世の中を治めることを理想としたんだ。



ということとは、今から(ウ)□□□□年以上も前に書かれたってことね。

そんな大昔に、人格や道徳を高めることで国を治めることの大切さを訴えていたなんて、なんだか不思議な気がするな。その考え方は後世に伝えられ、(ア)□□□のみならず、日本には五世紀頃には伝わっていたんだって。日本の学問や思想にも大きな影響を与えてきたんだとも書いてあるわ。



論語に収められた短い言葉の中には人間の生き方への鋭い観察や(エ)□□□が込められているんだって。

❀□□□とは、「物事の筋道を立てて深く考え進むこと」

課題②言葉のリズムや音の響きを味わいながら、「論語」を音読しよう。



どう、すらすら読むことができたかな？一年での「推敲」や二年での「漢詩」の学習で漢文について学んだとき漢文特有の言い回しがあったのを覚えているかい。同じように、論語にも独特の表現があるのでは？



そうだなあ。すらすら読むことはできるようになったんだけど、孔子がどんなものの方・考え方をしていたのか、読み取ることが大事だよな。



教科書の脚注に言葉の意味や説明が書かれているからまずはそれをつなげて現代語訳を作ってみようよ。

課題③ 次の四つの章句の意味を、教科書の脚注などを参考にしてみよう。

学まなびて時ときにこれこれを習しふ、また説よばしからずや。朋とも遠方より来たるあり、また樂たのしからずや。人知らずして
慍うらみず、また君子ならずや。

【現代語訳】

故ふるきを温めて新しきを知れば、もつて師たるべし。

【現代語訳】

学まなびて思おもはざれば 則すなはち罔くらし。思おもひて学まなばざれば則すなはち殆あやふし。

【現代語訳】

これを知る者は、これを好む者に如しかず。これを好む者は、これを楽しむ者に如かず。

【現代語訳】